

岡部富久市著

## 『おおいたの庚申さま』

小玉洋美

このたび、本会々員である岡部富久市氏が出版した写真集「おおいたの庚申さま」の紹介をかねて、若干の感想を述べてみたい。

これは、氏が一昨年十一月に、大分市のデパートで「庚申刻像塔写真展」を催したときの作品を中心にとまとめたものである。見開きの左頁に写真六一葉、右頁には「野仏に親しんでいただくことだけを念頭にコメントを加え」（まえがき）写真に対応して簡潔な、要を得た解説を付してある。氏の言を借りれば、「大分県の石造美術といえはすぐに白杵の石仏や、国東半島の仏達が思い出され、その素晴しさが、異口同音に語られるかげで、他の地方の野仏達がかすんでしまっていることを淋しく思っていましたので、これらの仏達の一部

分でも紹介することができれば」と考えて、このような写真集を刊行することにしたとある。

氏の研究の軌跡は、「あとがき」に詳しく述べられているとおりで、実証的な研究者としての熱心な姿勢をうかがうことができる。氏は十余年にわたって、大分川流域を中心に大分市・郡の庚申信仰を丹念に調査して、その成果を「大分県地方史」（61号・69号・78号・91号・99号）に発表しているそれだけに、右頁の説明については「あまり詳しいものはこの分野の専門の方にとっては自明であり」（まえがき）として、やや情緒的な説明に流れたのは惜しまれる。せめて、塔の法量・碑銘などを付け加えて欲しかった。同様の観点から注文すると、写真集に載せられなかった庚申塔も含めて、「あとがき」に大分市・郡の庚申塔一覽表を載せてもらいたかった。ともあれ、出版に当ってはご一家を挙げての協力がうかがわれ、自費出版の在り方を示唆してくれる好著である。A5変形版・一三〇頁・頒価四五〇〇円・申込先は大分市大道町五丁目一の一四〇・岡部富久市方

（大分県立大分鶴崎高等学校教諭